(公財)えひめ西条つながり基金助成プログラム
「西条市内に子ども食堂を2つ増やそう」

# ステップアップ報告書

この報告書は「西条市内に子ども食堂を2つ増やそう」の助成プログラムの2年目の報告書になります。2年目の活動をふりかえり、今後の活動に活かせるような報告書を作成しましょう。

記載日時：7年10月24日

団体名：土岡わくわく食堂

記載者名：[redacted]

1．実施内容の報告

| 月 | 実施内容(予定) | 実際の活動 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 9月 | テイクアウト | 10月26日テイクアウト<br>「わたしたちにできること弁当」 | 1人¥200の寄付金付き弁当 義援金は石川県能登へ 子44名 大人13名 |
| 11月 | テイクアウト | 11月12日テイクアウト | 子40人 大人12人 |
| 12月 | 冬休みイートイン | 12月26日イートイン<br>子どもたちのリクエストバイキング | 子70人 大人4人 |
| 2月 | テイクアウト | 2月22日テイクアウト | 子41人 大人13人 |
| 3月 | 春休みイートイン | 3月26日イートイン | 子72人 大人3人 |
| 5月 | テイクアウト | 5月10日テイクアウト | 子42人 大人5人 |
| 7月 | 夏休みイートイン | 7月5日テイクアウト | 子43人 大人6人 |
| 8月 | 夏休みイートイン | 8月20日イートイン<br>高校生が考える子ども食堂 | 子73人 大人3人 |

| 目指したい姿に近づいているかを確認しましょう | | | |
|---|---|---|---|
| 計画時 | | | |
| 子ども食堂の内容 | 組織体制 | 財政状況 | 地域の変化 |
| イートインスタイルとして子供たちが楽しく食事できる環境を作っていきたい | ボランティア（大人）の人数が増えて作業を分担できるような態勢を作っていく | 昨年度の助成金と、大人の食事代<br>地域の方からの野菜等の寄付などを活かす | 地域の人たちも気軽に食べにこれようにしていきたい |
| 現在の姿 | | | |
| 長期休暇の時には1回づつ開催でき、テイクアウトの時より、利用者数が増えているので、学童に行っている子を持つ保護者人の負担が減ってはいるなと実感している | イートインで吉岡公民館で作る際、手伝ってくれる人が増え、4～5人は手伝ってくれる。 | 寄付してくれる野菜や、お米の保管を公民館にお願いしてはみるが責任がとれないからと断わられる。イートインの時などの利用者は増えてきているが、大人の利用が少ないため、資金的には苦しい | 「吉岡わくわくこども食堂」から、こどもを除くことで、大人にも利用して欲しいが、なかなか難しい。 |
| 自己評価 | | | |
| 受付、チラシ作り学校への配布願いなど、1回の開催をするための準備の負担が大きく、仕事との並行が難しい。イートインともなるともっと負担が増えるため、イートインの数を増やすことは困難かと思う。 | 地元の人のボランティアが増えたことは良かった。丹原高校生もコラボしてくれたり、地域との連携を取り、繋がりを深めていきたい | 仕事と私事と食堂とのバランスが難しく、助成金以外での資金集めは難しく感じている。 | 子ども食堂のイメージが強く、大人は注文してはいけないと思われているようで、地域のお年寄りとかにも声をかけていこうかなぁと思っている |

3．総括と今後の取り組み

| |
|---|
| 丹原高校生とのコラボ食堂ができてよかった。高校はなくなってしまうが、引きついでもらえるよう頼んでいこうと思う。そして高校生が子ども達と楽しく関わる機会が増え、地域とも顔が見える繋がりが広がっていくようにしたい。 |

２．活動内容の評価

| この1年で取り組んだことを書いてください | | | |
|---|---|---|---|
| 計画時 | | | |
| 子ども食堂の内容 | 組織体制 | 財政状況 | 地域の変化 |
| イートインで食べれる環境を年三回以上できるようにしたいその内、子供たちも調理できる環境を作る | 鎌田農園さんや、石成さんなどに声をかけてコラボ食堂などを開催してみる<br><br>ボランティア（大人）のチラシを作り来てもらえるようにする | 地域の方が持って来てくれた食材を公民館がハブとなってくれるように頼んでみる | こども食堂の存在、周知が広がり、地域の人たちが行ってみようと思えるような環境を作る |
| 実際の活動 | | | |
| 長期休暇の時には1回づつ開催ができた。その内1回は高校生が中心となって開催できた | 鎌田農園さんにも快よく食材提供して頂けたり。地域の人にも声をかけ、少しづつ輪が広がっている | 資金源はないが、鎌田農園さんや、丹原高校園芸科の人たちが作った食材を頂けるようになった。 | 地域づくりの座談会などに参加させてもらい子ども食堂を周知してもらえるようになった |
| 自己評価 | | | |
| イートインの時の方が子どもの参加人数は多く、テイクアウトの時の顔ぶれとは違うことがある。学童に行っている子が多いこともあるが様々な子に利用してもらえることがすごく嬉しい | シェフの人がイートインの時にはお手伝いしてくれるためすごく力になる。高校生たちもボランティアに参加してくれ今後根づいてくれるとうれしい。 | お米や野菜は頂けるようになり嬉しいのだが容器代や調味料などは購入資金が必要なので今後考えないといけないが難しい課題である | 高校生が自分で考えこども食堂をやってみることで見えてきたものがあった地域との交流が広がることがすごく嬉しいことだった。 |